

## 5. 行政とのかかわり

### 1) 市民と行政との新しい関係 (問 45)

震災以前は、行政に全てまかせておけば、後見人としてこれ以上の存在はないとする「後見主義的」考え方、市民一人一人が自由な考えでふるまっていけばよいとする「自由主義的」考え方の二つの考え方が多かったといわれている。震災後はボランティアや市民の共助の重要性を認識する機会を得て、元来行政だけの仕事と考えられていた公共的なことについても、市民の積極的関与によって担われるべきとする「共和主義的」考え方が定着しつつあると考えられてきた。

市民と行政とのかかわり方についてどのようなものがよいと思うか回答を求めた。

具体的には「震災以来、市民と行政との関係が注目されるようになりました。あなたはどのような市民と行政とのかかわり方がよいとお考えですか」として、4つのテーマ「ゴミ出しのルール」「地域活動」「大災害の時に、市民の命を守るのは」「まちづくり」について、「後見主義」「自由主義」「共和主義」のそれぞれの考え方に基づく選択肢を用意し回答を求めた。(問 45)

得られた回答について、等質性分析(回答データからの情報を損なわない形で、質問項目の似ているカテゴリーを探し出し、似通った反応を示す調査対象者を見つけ出す統計的分析手法)を行った。

その結果得られた得点から、回答者が行政とのかかわり方について、「後見主義」「自由主義」「共和主義」のどの考えを強く持っているかによって、3つのグループに分けた。

2005年調査の「行政とのかかわり」に関する回答傾向は、2001年調査、2003年調査と同様に、「後見主義」「自由主義」「共和主義」にグループ分けすることができた。(図 1-58)

\*共和主義は「自律と連帯をもとに成立」、後見主義は「連帯は重視するが自律は弱い」、自由主義は「連帯は無視して、自律についてはコミットしていない」という特徴を持つ考え方である。

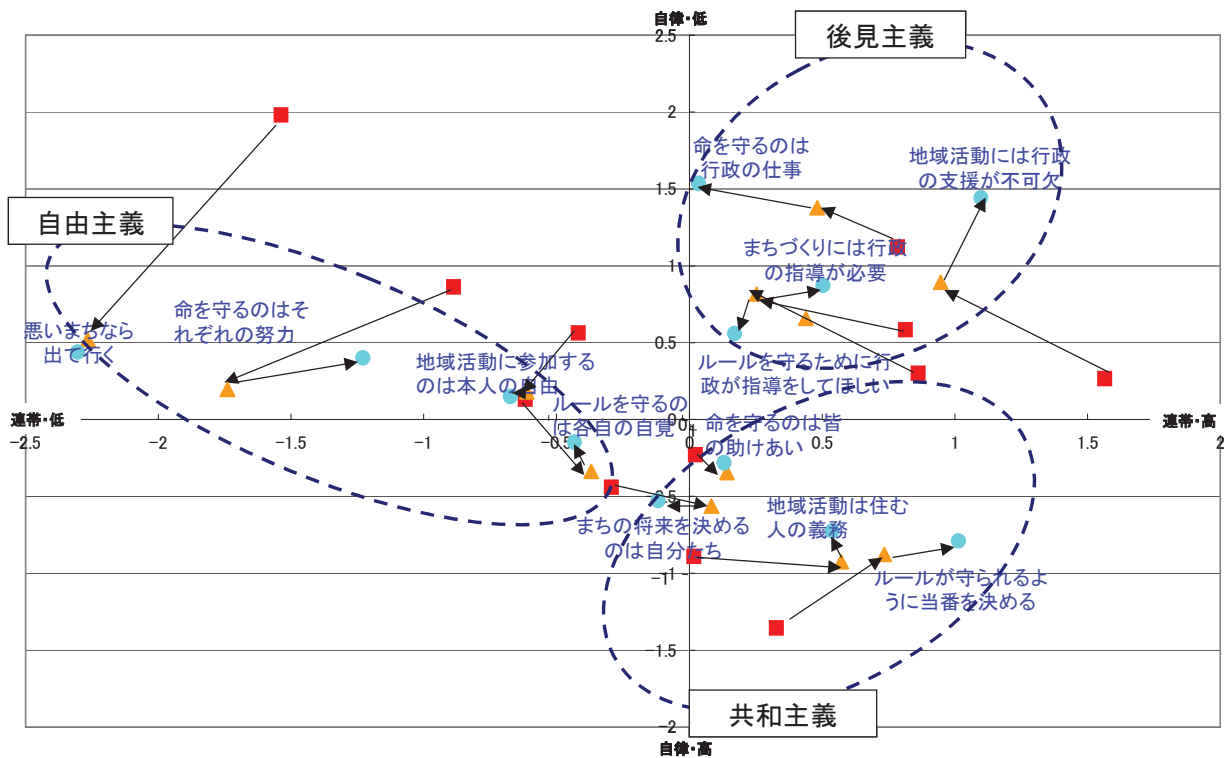


図 1-58 2001 年調査結果(■)、2003 年調査結果(▲)、2005 年調査結果(●)

①全体傾向

- ・共和主義的な考え方を持つ人が減少し、自由主義的な考え方を持つ人が増加した。

各カテゴリーに属する回答者の人数を比較すると、共和主義的な考え方を持つ人は 18.2%(2003 年調査比-12.6ポイント)、自由主義的な考え方を持つ人は 59.2%(同+18.5ポイント)、後見主義的な考え方を持つ人は 22.6%(同-5.8ポイント)であり、共和主義的な考え方を持つ人が減少し、自由主義的な考え方を持つ人が増加した。(図 1-59)

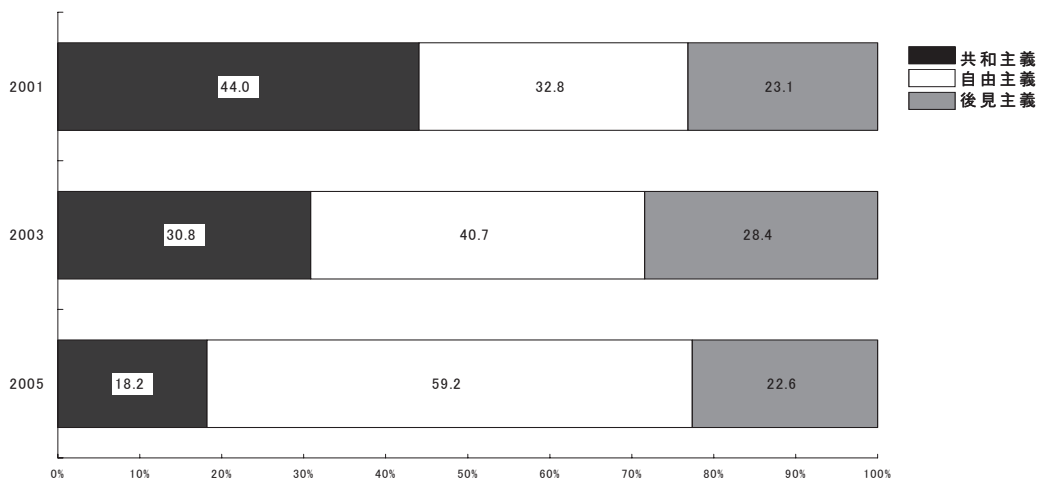


図 1-59 行政とのかかわりにおける各カテゴリーに関する人数の割合

## ②世代との関連

- ・ 世代が高くなるほど、「共和主義」の人が少なく、「自由主義」の人が多かった。
- ・ 40代以上は、時間経過とともに、「共和主義」の人が減少し、「自由主義」の人が増加した。（図 1-60）

世代別に行政とのかかわり方を見ると、20・30代の人よりも40・50代、60代以上の人のほうが、「共和主義」の人が多く、「自由主義」の人が多いことがわかった。

また、2001年調査からの傾向を見ると、40代以上の人は、時間経過とともに、「共和主義」の人が減少し、「自由主義」の人が増加していることがわかった。

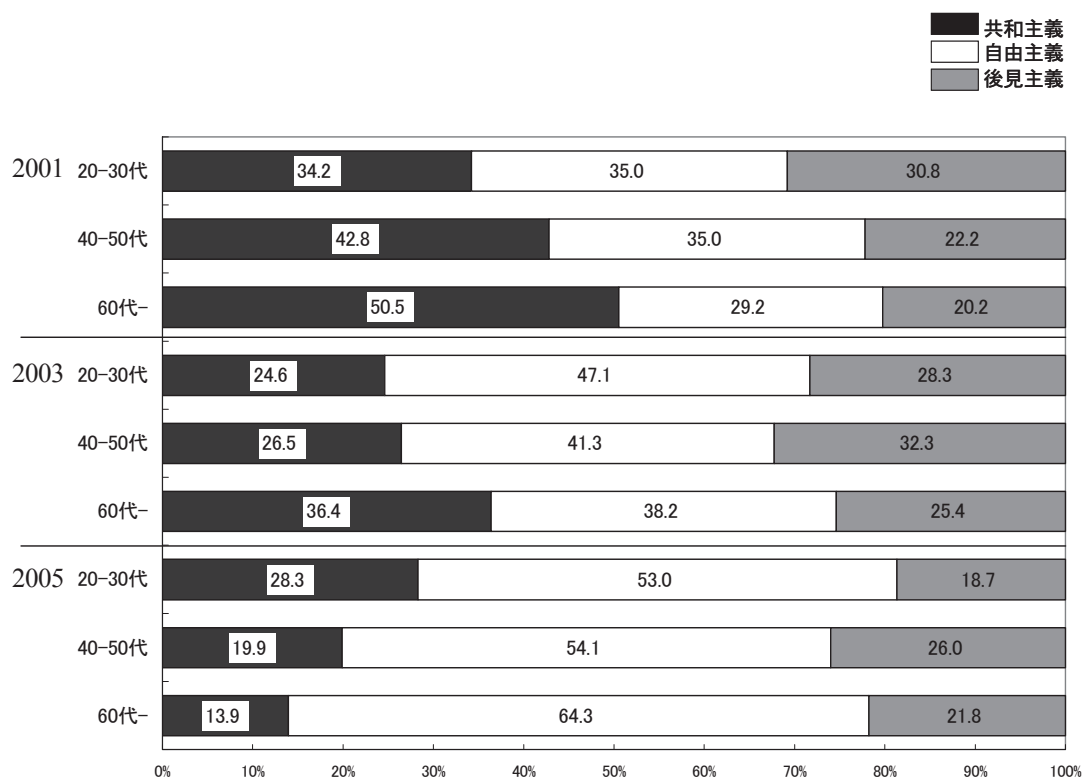


図 1-60 行政とのかかわりにおけるカテゴリーに属する人数の割合（調査年世代別）